

平成 31 年度 札幌市ひきこもり地域支援センター設置運營業務

札幌市ひきこもり地域支援センター 事業実績報告書

公益財団法人北海道精神保健推進協会

はじめに

公益財団法人北海道精神保健推進協会(以下「当法人」という)では札幌市より「札幌市ひきこもり地域支援センター」(以下「当センター」という)の運営委託を受け、平成27年10月より、ひきこもり当事者や家族等からの相談を受けるとともに、関係機関とのネットワーク構築及び一般市民等に対する普及啓発などを行ってきた。

今年度の開所日数は244日(平日)と出張無料相談会が20日(土曜・日曜)あり、計264日となり、平成31年度の新規相談は369件であった。新規相談が毎日1ケース以上の相談があったといえる。延べ相談件数は、平成30年度の1,473件から2,494件に増加し、約1.7倍になっている。1つには、『川崎殺傷事件』等の報道から不安を感じたという本人・家族からの相談が実際にあり、相談件数の増加と関連があると考えられる。

また、アウトリーチ支援は118件あった。平成29年度の17件、平成30年度の69件と年々増加している。これは、コーディネーターが3名体制となった中で、ケースに応じて積極的にアウトリーチ支援を行った結果でもあり、親が高齢で当センターまで足を運べない等、個々のケースに応じた支援をした結果である。また、昨年度から引き続き年40回(市内10区×4回ずつ)の出張無料相談会は計85件の相談に応じ、継続相談者についても出張無料相談会を活用するなどし、相談者への利便性を図った。

支援機関の連携については、既存の連絡協議会等を活用し、地域の関係機関(医療、保健、福祉、教育、就労等)との情報交換を行う等、各機関間で恒常的な連携が確保できるように努めた。状況に応じて、各支援機関へスーパーバイズ(指導・監督・助言)も行った。児童期に関しては、「さっぽろ子ども・若者地域支援協議会」のネットワークを活用した。

居場所「よりどころ」事業への相談員(専門職)派遣も継続し、「よりどころから相談へ」、「相談からよりどころへ」、親・当事者それぞれのケースで状況に応じて活用ができた。

相談支援の流れは以下のとおりになっている。

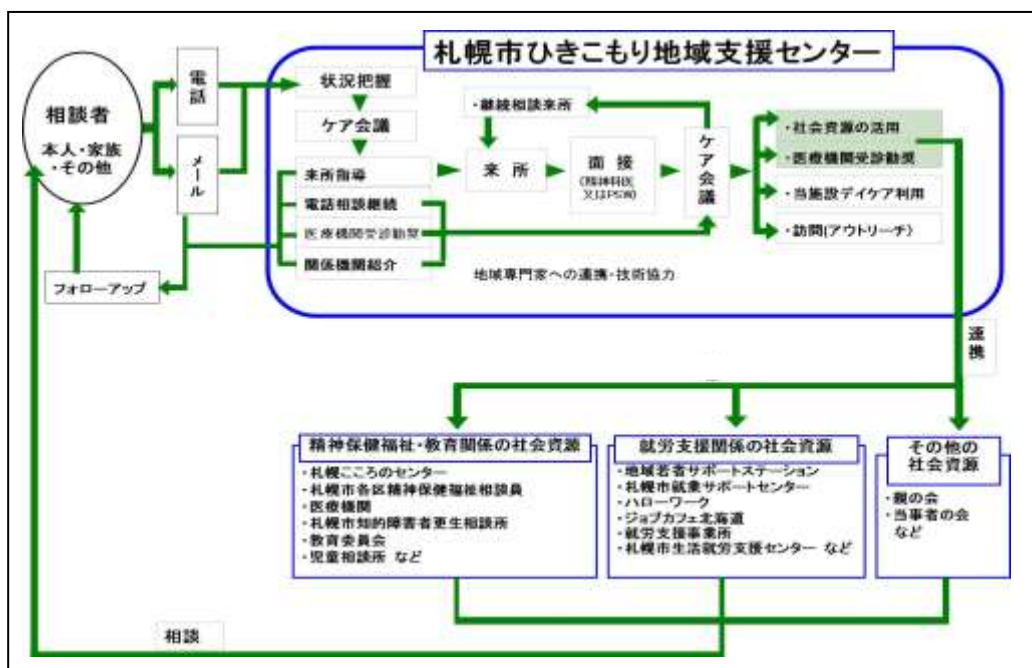


図1 相談支援の流れ

1. 相談支援実施状況

平成 31 年度の支援実績は以下のとおりである。

(1) 相談支援概要

ア. 相談件数 (単位: 件)

相談件数計	2, 4 9 4
新規相談	3 6 9
継続相談	2, 1 2 5



図 2 相談件数の推移 (年度別)

○当年度の相談延べ件数は、2,494 件であり、新規相談者は 369 名であった。昨年度と比較すると、新規相談件数は、約 1.1 倍、継続相談は約 1.9 倍の件数になっている。

○延べ件数を開所日数 (264 日: 平日+出張相談の土日) で割ると、一日あたり約 9.4 件、相談を受けていることになり、平成 30 年度の一日あたり約 5.6 件より増加している。

イ. 相談方法別内訳

	新規	継続	総計	構成比(%)
電話	266	241	507	19.5%
来所	26	742	768	29.5%
メール	44	972	1016	39.1%
アウトリーチ	3	115	118	4.5%
出張相談等	30	55	85	3.3%
小計	369	2125	2494	
連携	-	107	107	4.1%
ケア会議	-	-	-	-
小計	-	107	107	
総計	369	2232	2601	100%

- 新規相談では「電話」が最も多く、ついで「メール」「出張相談」「来所」の順に多い。
- 「ケア会議」に件数を計上はしていないが、必要に応じて全ての相談ケースにおいて、日頃から各相談員同士で支援方法についてケース検討・会議を実施している。
- 「アウトリーチ（訪問支援）」については慎重に行う必要があり、本人及び家族へのアセスメントを十分に行ったうえで実施している。
- 「出張相談等」の開催区は下記の表のとおりである。厚別区・白石区が低い件数となっているが、当センターが白石区に所在しているためアクセスのしやすさから「来所」による相談が行いやすいことが理由として考えられる。豊平区・清田区も低い件数となっており、区役所や区民センターへのアクセスしづらさを相談者から声があるため、今後開催地の工夫等を検討していきたい。各区の詳細は16ページに記載する。

開催区	件数
白石区	5
豊平区	3
厚別区	4
手稲区	10
清田区	5
中央区	9
東区	12
西区	9
南区	7
北区	20
その他	1
計	85

※「その他」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から出張相談を中止し、当センターでの相談とした。

ウ. 相談時間

(単位:回)

	0~ 15分未満	15~ 30分未満	30~ 60分未満	60分以上	合計	延べ相談 時間 (時:分)	平均 所要時間
電話	141	191	157	18	507	201:6	24分
来所	2	7	100	659	768	821:40	1時間4分
メール	817	180	19		1016	193:5	11分
アウトリーチ	2	1	13	102	118	183:15	1時間33分
出張相談等			10	75	85	95:50	1時間8分
連携	61	14	12	20	107	40:5	23分
計	1023	393	311	874	2601	1535:1	35分

エ. 延べ回数と実人数

1. 電話相談

延べ回数	507回
実人数	315名

2. 来所相談

延べ回数	768回
実人数	172名

3. メール相談

延べ回数	1016回
実人数	96名

※延べ回数はメール受信及び返信の回数

4. アウトリーチ

延べ回数	118回
実人数	38名

5. 出張相談等

延べ回数	85回
実人数	66名

(2) 相談者の状況

ア. 相談者内訳

(単位:件)

	件数	構成比
本人	68	18.4%
父	36	9.8%
母	153	41.5%
両親	13	3.5%
兄弟姉妹等	72	19.5%
配偶者	6	1.6%
その他	21	5.7%
計	369	100%

○主な相談者は「父」「母」「両親」で 54.8%を占める。「本人」からの相談も 18.4%あり、69.7%と約7割が本人及び親からの相談であった。

○「兄弟姉妹等」の内訳は、兄弟姉妹が 60 件と、前年度の 37 件より増加している。他は義兄弟姉妹など親戚が 12 件である。

○「その他」の内訳は、他支援機関からのケース紹介、知人、職場の上司等である。

イ. 相談方法別内訳

(単位:回)

	電話	来所	メール	アウトリーチ	出張相談等	計
本人	48	2	13	3	2	68
父	25	6	5			36
母	118	11	11		13	153
両親		5			8	13
兄弟姉妹等	50	2	14		6	72
配偶者	4		1		1	6
その他	21					21
計	266	26	44	3	30	369

(3) 当事者の状況

ア. 当事者の年齢

(単位：人)

	男	女	不明	計	構成比
10歳未満	2			2	0.5%
10歳以上～15歳未満	5	4	1	10	2.7%
15歳以上～20歳未満	28	16	1	45	12.2%
20歳以上～30歳未満	71	24		95	25.7%
30歳以上～40歳未満	53	19		72	19.5%
40歳以上～50歳未満	45	24		69	18.7%
50歳以上～60歳未満	42	5		47	12.7%
60歳以上	3	1		4	1.1%
不明	16	8	1	25	6.8%
計	265	101	3	369	100%

○「20歳以上～30歳未満」が95名（25.7%）と「30歳以上～40歳未満」が72名（19.5%）を合わせて、167名（45.2%）となり、ひきこもり当事者の約5割を占める。

○「40歳以上」以降が全体の32.5%を占めており『ひきこもり』が若者だけの問題ではない事が分かる。

○最少年齢は8歳、最高年齢は64歳となっており、男性の平均は34.1歳、女性の平均は31.5歳、全体平均は33.2歳であった。

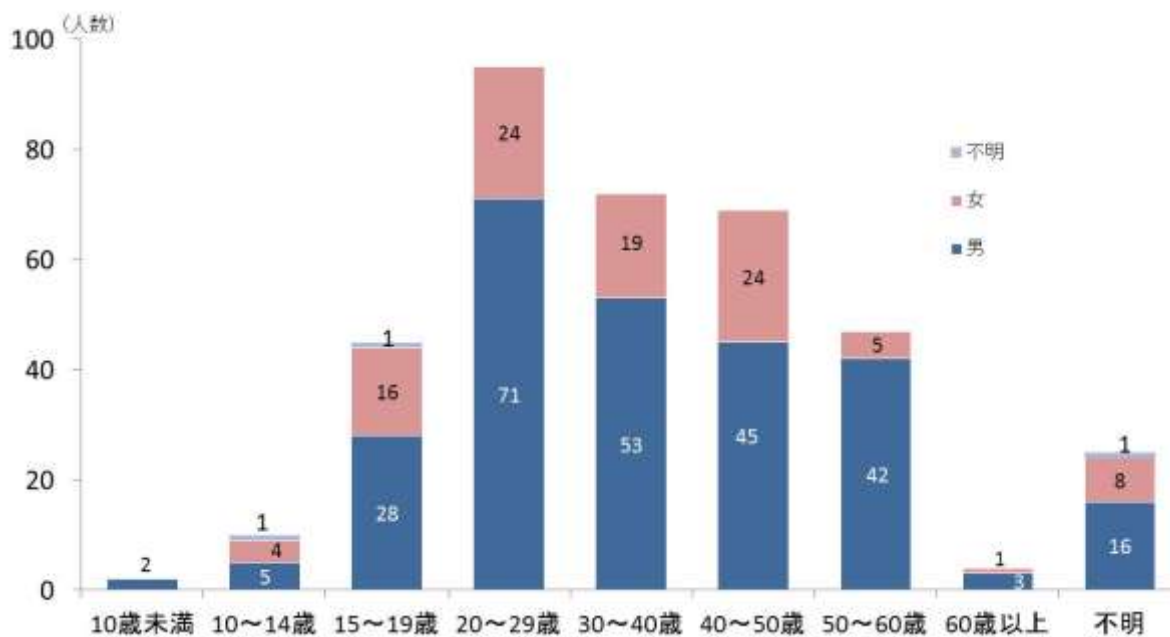


図3 当事者の年齢区分・性別状況

イ. 当事者の居住地区 (単位：件)

本人居住地	件数	構成比
札幌市内	71	19.2%
白石区	35	9.5%
豊平区	36	9.8%
厚別区	24	6.5%
手稲区	26	7.0%
清田区	15	4.1%
中央区	43	11.7%
東区	27	7.3%
西区	23	6.2%
南区	27	7.3%
北区	42	11.4%
計	369	100%

○当年度の相談のうち、件数では「札幌市内」が多く、相談の中で居住地区までは分らないが、札幌市内在住までは把握できた場合に計上している。

○件数では、「札幌市内」に次いで「中央区」、「北区」、「豊平区」、「白石区」の順に多い。

○各区からの相談が寄せられている。

(4) 相談目的

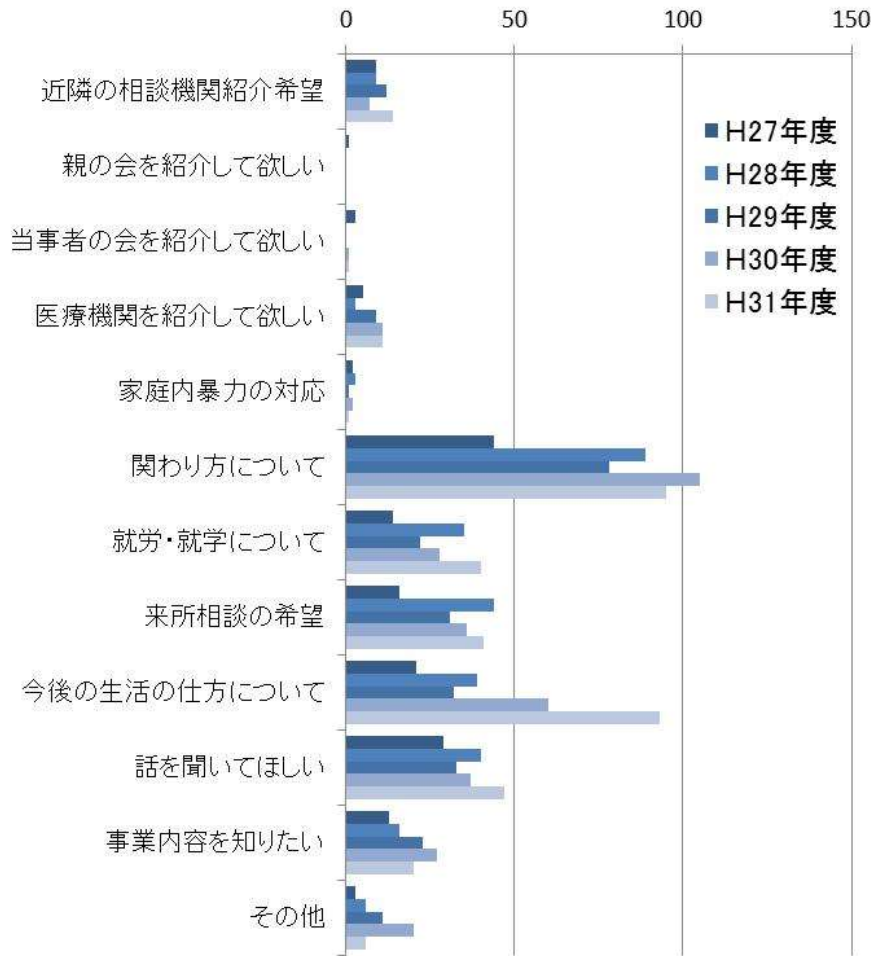


図4 相談目的内訳

○相談目的は多岐にわたっている。

○相談目的としては「関わり方について」の割合が依然として高い。

○当年度は「今後の生活の仕方について」の割合も高く、「親の高齢化」等、先の見通しを求める相談が多かった。

○「その他」には、「訪問や出張相談の希望」、「他機関からの照会」などがあげられる。

(5) 他機関への相談経験の有無

(単位：件)

	件数	構成比
相談経験あり	199	53.9%
相談経験なし	19	5.1%
不明	151	40.9%
計	369	100%

- 当センターへ相談する以前に、他機関へ相談している方が 199 件 (53.9%) であり、当センターに相談につながる前に、すでにひきこもり状態について相談していることが伺える。
- 「相談経験あり」の内訳は、医療機関(精神科)が最も多く(147 件)、区役所:福祉課・保護課(29 件)、医療機関(他科)が(24 件)、医療機関(心療内科)(19 件)、若者サポートステーション(15 件)、学校(12 件)、警察(11 件)、などがある。
 - ※1 ケースにつき複数機関に相談していた場合を含む。
- 「相談経験あり」のうち、すでに医療機関にかかっているケース(計 187 件)が多く、診断名(精神疾患)が付いているケースもある。また、慢性疾患等の治療により外出しない、頻度が少ないという「ひきこもり問題」とは別の視点での相談もあった。

(6) 相談の継続性

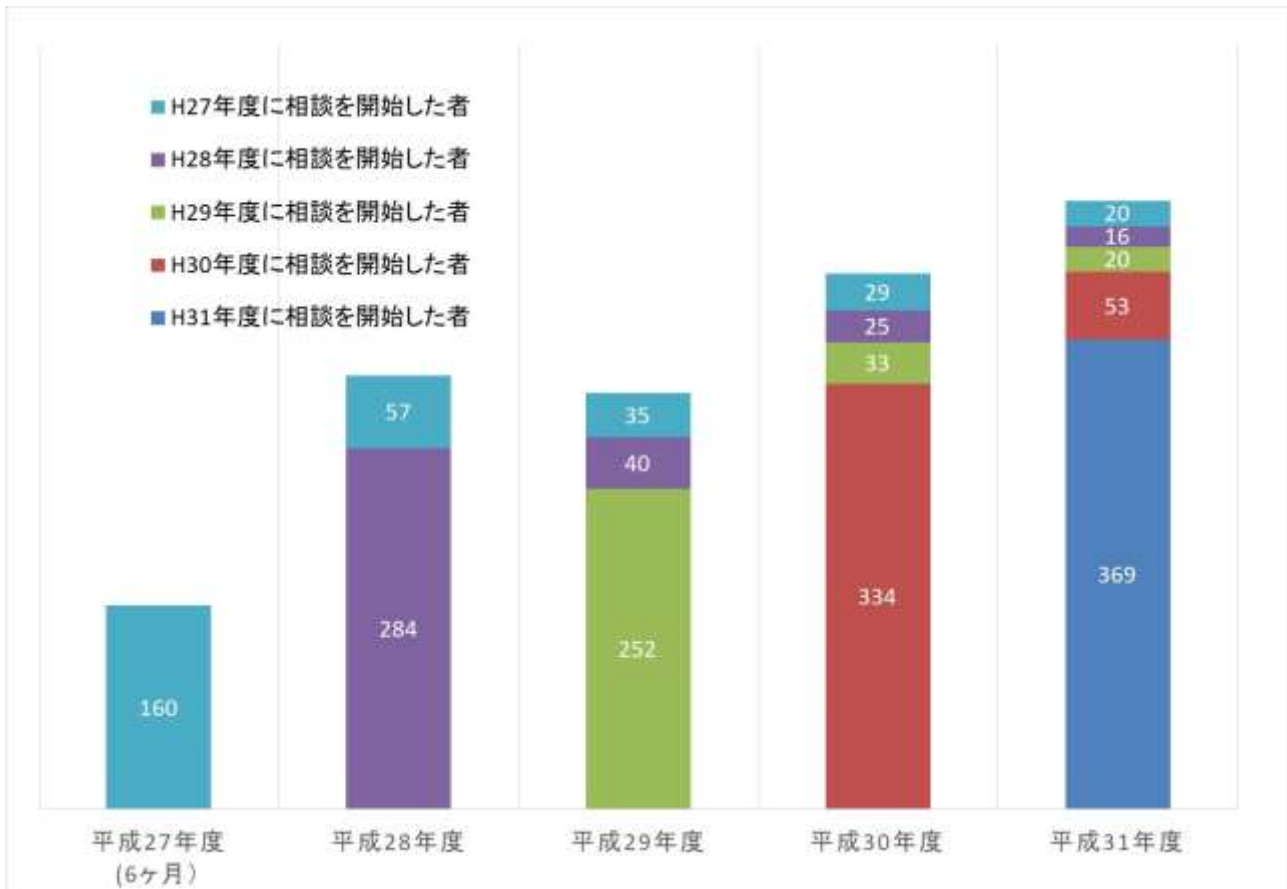


図5 相談開始年度別相談実人数（年度別）

- 事業を開始した平成27年度、以降の年度それぞれの相談者が当年度にも継続相談しているケースがある。就労・就学・医療などに繋がり、ひきこもり状態から脱したケースもあるが、相談の継続をいかに図り、相談後の転帰を把握することが今後も課題と考えている。
- 当年度の相談のうち、相談後の転帰として「医療に繋がった(24件:新規ひきこもり外来含む)、就労した(4件)、就学・進学した(1件)」が把握できた限りにおいてあげられる。全てのケースにおいて、相談後の転帰を把握してはいないため、これ以外にも、就労・就学・医療等に繋がったケースはありと思われる。

(7) 初回相談転帰

転帰	件数
終了	187
助言終了	(146)
関係機関紹介	(28)
その他	(0)
受診勧奨	(8)
中断	(5)
継続	182
電話・メール相談継続	(102)
来所相談を希望・指導	(80)
総計	369

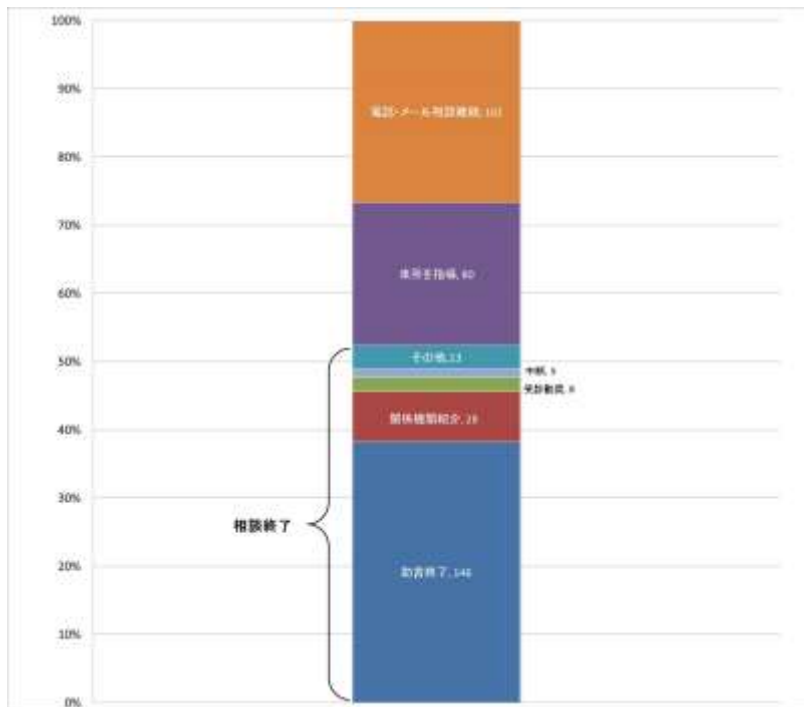


図 6 初回相談の転帰

- 初回相談で終了したケースは187件（50.6%）で、そのうち「助言終了」が146件であった。助言終了と判断した後も再度、電話相談等につながるケースもある。
- 初回相談で終了したケースには、「すでに医療機関に繋がっていたケース（主治医との関係に悩む、通院以外の外出が乏しい等）」「就労について（求職、復職等）」といった「ひきこもり」の相談ではないものもあった。
- 「電話・メール相談継続」が102件、「来所相談」に切り替えたのが80件、計182件（49.4%）が継続相談を要すると判断し対応した。

(8) 連携状況

他機関へのつなぎ	件数	構成比
札幌市各区福祉課	18	25.0%
札幌市各区保護課	13	18.1%
民間企業	13	18.1%
医療機関（他科）	7	9.7%
医療機関（精神科）	5	6.9%
若者サポートステーション	4	5.6%
札幌市ホームレス相談支援センター	4	5.6%
地域包括支援センター	3	4.2%
社会福祉協議会	2	2.8%
夕張市相談員	1	1.4%
知的障害者更生相談所	1	1.4%
年金事務所	1	1.4%
計	72	100%

他機関からのつなぎ	件数	構成比
民間企業	12	25.0%
医療機関（精神科）	9	18.8%
札幌市各区保護課	5	10.4%
札幌市各区福祉課	5	10.4%
医療機関（他科）	5	10.4%
若者サポートステーション	2	4.2%
地域包括支援センター	2	4.2%
民生委員	1	2.1%
専門学校教員	1	2.1%
生活困窮者相談窓口	1	2.1%
相談支援事業所	1	2.1%
就労継続支援 B 型事業所	1	2.1%
夕張市相談員	1	2.1%
社会福祉協議会	1	2.1%
札幌市基幹相談支援センター	1	2.1%
計	48	100%

○当年度、他支援機関と連携したのは計 120 件ある。上記の表のとおり、当センターより「他支援機関へケース相談等を行ったのが 72 件」、「他支援機関からのケース相談や紹介が 48 件」ある。

○今後も、個々のケースに沿って適切な支援機関と連携していくことが、ひきこもり状態を脱することに繋がると考える。

(9) ひきこもり相談から当法人の精神科デイケアを活用したケース

ア. 精神科デイケアへの通所

	人数
平成 31 年度	9 名
平成 27 年度～平成 30 年度	15 名
計	24 名

○当年度、ひきこもり相談やひきこもり外来から当施設併設のデイケア通所につながったケースは 9 名であり、これまでの 24 名がデイケア通所につながり、現在も通所中のケースも多い。

イ. ひきこもり外来状況

年 度	平成 27-30 年度	平成 31 年度	計
延べ回数	353 回	342 回	695 回
新規ケース	46 名	23 名	69 名

○当年度、ひきこもり相談からひきこもり外来につながったケースは 23 名であった。

○当年度、実人数として、ひきこもり外来を 40 名に対して行い、計 342 回の診察があった。前年度までを全て足した回数と同等である。集中的な治療が必要なケースもあり、ひきこもりと精神障碍との関連も忘れてはならないことが分かる。

○外来に繋がった事により、『ひきこもり』状態から脱する一歩を踏み出したといえる。

○外来は、本人のみならず、父や母の同席での診察を行うこともある。

2. 支援ネットワークの構築等

関係機関に対する事業概要説明をはじめ、講演会等の講師派遣、研修会参加などにより各支援機関との情報共有、連携を行ってきた。状況は以下のとおりである。

(1) ネットワーク構築状況

月	日	実施内容	備考
6	11	千歳市精神保健センターより札幌市のひきこもり状況について問い合わせ	電話
6	11	北海道議会議員 見学来所	1名来所
6	27	札幌市子ども未来局来所（打ち合わせ）	2名来所
7	23	岡山県議会議員（見学来所）	13名来所
8	22	A大学より ひきこもりインタビュー（日程調整依頼）	電話
9	4	就労支援センターより相談対象についての問い合わせ	電話
9	18	令和元年度 第1回札幌市生活困窮者自立支援ネットワーク会議	1名参加
10	10	札幌市教育委員会 見学来所	1名来所
10	30	B民間企業より問い合わせ（就労の提供について）	電話
11	26	C株式会社より問い合わせ（制度の狭間の就労支援について）	電話
12	5	北海道経済部より問い合わせ（ひきこもりの就労について）	電話
12	27	「ひきこもり支援のための居場所の設置状況」 厚生労働省 社会福祉推進事業 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 調査	郵送
2	28	C株式会社より問い合わせ（就労支援について）	電話

(2) ひきこもり出張無料相談会実施状況

当センターの通常相談の開設日は平日の日中である。相談者によっては、平日の日中は「仕事があり相談ができない」等、多様なニーズが考えられる。そのため、「ひきこもり出張無料相談会」は各月4回程度（平日水曜日2回、土曜日・日曜日1回ずつ）13：30～16：00に実施した。

「ひきこもり出張無料相談会」の実施にあたっては、当センターのホームページ、新聞掲載、広報さっぽろ（誌面、地デジ、アプリ）、10区役所・10区民センターおよび他関係機関へのチラシ配布等で周知を行った。特に、広報誌（配布）への掲載は市民からの反響が大きかった。各回、申込状況に合わせて、相談員を調整した。

月	日	実施内容	備考
4	24	対象地区：豊平区 場 所：かでの2・7	・相談1件
5	8	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談4件
5	18	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談2件
5	26	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談2件
5	29	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談2件
6	5	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談0件
6	15	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談0件
6	19	対象地区：豊平区 場 所：かでの2・7	・相談1件
6	23	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談2件
7	10	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談1件
7	20	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談3件
7	24	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談4件
7	28	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談5件

8	7	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談 2 件
8	17	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談 0 件
8	25	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談 4 件
8	28	対象地区：厚別区 場 所：厚別区役所	・相談 2 件
9	11	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談 2 件
9	21	対象地区：豊平区 場 所：かでの 2・7	・相談 0 件
9	25	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談 2 件
9	29	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談 2 件
10	9	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談 4 件
10	19	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談 2 件
10	23	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談 3 件
10	27	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談 4 件
11	13	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	・相談 1 件
11	16	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	・相談 1 件
11	24	対象地区：厚別区 場 所：厚別区民センター	・相談 2 件
11	27	対象地区：豊平区 場 所：かでの 2・7	・相談 1 件
12	11	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談 4 件
12	21	対象地区：中央区 場 所：中央区民センター	・相談 4 件
12	25	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談 4 件

1	18	対象地区：手稲区 場 所：手稲区民センター	・相談3件
1	26	対象地区：南区 場 所：南区民センター	・相談2件
2	5	対象地区：東区 場 所：東区民センター	・相談2件
2	15	対象地区：北区 場 所：北区民センター	・相談3件
2	19	対象地区：西区 場 所：西区民センター	・相談3件
3	4	対象地区：厚別区 場 所：厚別区役所	コロナウイルス感染 拡大防止のため中止
3	14	対象地区：白石区 場 所：白石区民センター	コロナウイルス感染 拡大防止のため中止
3	18	対象地区：清田区 場 所：清田区役所	コロナウイルス感染 拡大防止のため中止
3	22	対象地区：中央区 場 所：札幌市ひきこもり地域支援センター (こころのリカバリーセンター内)	コロナウイルス感染拡大 防止のため中止し、 緊急性の高い1件を 当センターで実施

※12月19日、若者サポートステーションと合同説明会を行った。札幌市内の相談はなかった。

○当年度の「ひきこもり出張無料相談会」は、相談数85件（うち新規相談30件）。

相談者数が最も多かった区は北区。次いで東区、手稲区、中央区・西区となっている。

○当センター（白石区）から遠方の区や、交通機関等の利便性の高い区に相談数が多いことが窺える。

○北海道新聞「さっぽろ10区」に掲載し周知宣伝した。2019年4月～2020年2月（計8回）。

(3) ひきこもり支援関係者研修会実施状況

月	日	実 施 内 容	備 考
3	20	令和元年度 ひきこもり支援機関関係職員等研修会 「今話せるひきこりのこと～経験者の語りから～」 インターネット配信期間：3/31(火)～4/26(日) 参加者内訳：札幌市25名、札幌市外52名	※ひきこもりサポーター養成研修と同時開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため座学の開催を中止し、

録画配信による「インターネット配信」研修会とした

(4) ひきこもり関連会議参加状況

月	日	実施内容	備考
		KHJ全国ひきこもり家族会連合会全国大会 実行委員会 ※5/13、7/8、9/23、10/11	1名参加
6	14	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第1回実務者会議	1名参加
7	12	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（横浜市）	1名参加
9	18	令和元年度 第1回ネットワーク会議 （札幌市生活就労支援センター ステップ主催）	1名参加
11	8	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第2回実務者会議および 令和元年度さっぽろ子ども・若者支援地域協議会	1名参加
12	12	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第3回実務者会議	1名参加
2	3	ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会議（神戸市）	1名参加
3	12	さっぽろ子ども若者支援地域協議会 第4回実務者会議及び代表者会議	コロナウイルス 感染拡大防 止のため中止

(5) 講師派遣状況等

月	日	実施内容	備考
8	31	NPO法人フリースクール札幌自由が丘学園主催 「孤立を防ごう 不登校・ひきこもり」	1名派遣
10	5	ソーシャルワーカー協会「ひきこもり支援セミナー」	1名派遣
10	12 13	KHJ全国ひきこもり家族会連合会全国大会 (講師及び実行委員)	3名派遣
11	8	青少年育成協会「ひきこもりについて研修会」	1名派遣
11	15	札幌市清田区ケアマネージャー研修会	1名派遣
11	26	厚別区自立支援協議会	1名派遣
11	30	一般社団法人北海道臨床精神薬理研究会 札幌市民フォーラム	1名派遣
1	24	札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 研修会	1名派遣

(6) 外部研修参加状況等

月	日	実施内容	備考
6	9	「ひきこもり 8050 問題と命の危機予防を考える」	3名参加
10	12 13	KHJ全国ひきこもり家族会連合会 全国大会	3名参加

(7) ひきこもりサポーター養成研修事業

月	日	実 施 内 容	備 考
3	20	ひきこもりサポーター養成研修 「今話せるひきこりのこと～経験者の語りから～」 インターネット配信期間：3/31(火)～4/26(日) 参加者内訳：札幌市25名、札幌市外52名	※ひきこもり 支援機関関係 職員等研修会 と同時開催
		研修会撮影打ち合わせ (就労継続支援B型事業所 ここりカ・プロダクション)	

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため座学の開催を中止し、

録画配信による「インターネット配信」研修会とした。

※「ひきこもりサポーターの養成登録が本格化した場合にサポーター登録を希望するか」と希望調査も行っている。

※「ひきこもりサポーター養成研修協議会（※設置要綱 別紙1）」は上記の理由から開催を見送った。

(8) 居場所「よりどころ」(親の会・当事者会)への専門職の派遣

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークが実施している「よりどころ」に月2回参加し、精神保健福祉士等の専門職が相談に対応できるような体制を確保している。よりどころから新規相談に繋がったケースや、以前相談歴があり、よりどころがきっかけで再相談に至ったケースもあった。また、当センターの相談者が「親の会・当事者会」に繋がるケースもあり、社会資源の1つになっている。

<親の会>

月	日	実施内容	備考
4	22	よりどころ 親の会①	1名派遣
5	27	よりどころ 親の会② ※CRAFT学習会	1名派遣
6	24	よりどころ 親の会③ ※家族心理教育体験	3名派遣
7	22	よりどころ 親の会④ ※CRAFT学習会	1名派遣
8	26	よりどころ 親の会⑤ ※家族心理教育体験	3名派遣
9	9	よりどころ 親の会⑥ ※CRAFT学習会	1名派遣
10	28	よりどころ 親の会⑦ ※家族心理教育体験	3名派遣
11	25	よりどころ 親の会⑧ ※CRAFT学習会	1名派遣
12	9	よりどころ 親の会⑨ ※家族心理教育体験とグループワーク	3名派遣
1	27	よりどころ 親の会⑩ ※CRAFT学習会	1名派遣
2	24	よりどころ 親の会⑪ ※CRAFT学習会	1名派遣
3	23	よりどころ 親の会⑫ ※コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

<当事者会>

月	日	実施内容	備考
4	1	よりどころ 当事者会①	1名派遣
5	20	よりどころ 当事者会②	1名派遣
6	3	よりどころ 当事者会③	1名派遣
7	1	よりどころ 当事者会④	1名派遣
8	5	よりどころ 当事者会⑤	1名派遣
9	2	よりどころ 当事者会⑥	1名派遣
10	7	よりどころ 当事者会⑦	1名派遣
11	18	よりどころ 当事者会⑧	1名派遣
12	2	よりどころ 当事者会⑨	1名派遣
1	6	よりどころ 当事者会⑩	1名派遣
2	3	よりどころ 当事者会⑪	1名派遣
3	2	よりどころ 当事者会⑫ ※コロナウイルス感染拡大防止のため中止	

3. 普及啓発

「ひきこもり」に関する基本的な知識や、姿勢、支援方法等、正しい知識の普及に努めた。

(1) 普及啓発実施状況

月	日	実施内容	備考
5	31	HBCテレビより取材（川崎殺傷事件についてコメント）	電話
5	31	北海道通信社（教育関係）平成30年度事業報告について	情報掲載
6	4	UHBテレビ「道内におけるひきこもりの実態調査」取材	電話
6	5	くらしの新聞社まんまる新聞「悩んでないで相談を」に掲載	新聞掲載
6	11	STVテレビより事前取材	来所
6	19	STVテレビより事前取材	来所
6	21	STVテレビより取材 Aさんの取材同行（北海道新聞販売所にて）	テレビ
6	28	くらしの新聞社まんまる新聞「悩んでないで相談を」に掲載	新聞掲載
7	2	2020年度版「民生委員・児童委員手帳」および「社会福祉手帳」の関係機関、団体一覧への掲載	情報掲載
7	10	STVテレビ インタビュー放送	テレビ
7	12 13	東京読売新聞より電話取材・新聞掲載	電話 新聞掲載
7	26	北海道新聞記者より問い合わせ	電話
8	6	北海道新聞記者より問い合わせ	電話
8	7	札幌市厚別区介護予防センター大谷地へ リーフレット送付	郵送
8	21	北海道精神保健協会機関誌「心の健康」原稿依頼、打ち合わせ	-
8	22	北海道新聞「成人のひきこもり経験者が支援」内に記事掲載	新聞掲載
8	23	くらしの新聞社 まんまる新聞「悩んでないで相談を」に掲載	新聞掲載
8	25	熊本市「ひきこもり地域支援センターに係る調査」に回答	メール
8	26	NPO法人フリースクール札幌自由が丘学園主催 「孤立を防ごう 不登校・ひきこもり」研修 打ち合わせ	来所
8	29	札幌市北区社会保障推進協議会へパンフレット郵送	郵送
9	18	札幌市厚別区社会福祉課へパンフレット郵送	郵送
12	6	北海道精神保健協会機関誌「心の健康」原稿提出・掲載	掲載
2	28	くらしの新聞社 まんまる新聞「悩んでないで相談を」に掲載	新聞掲載
3	17	NHKより「中高年ひきこもり支援に関するアンケート」に回答	調査票
3	31	NHK札幌放送局 取材	電話

(2) インターネット利用（ホームページ）による情報発信

「ひきこもり」に対する理解と支援団体、相談機関などとネットワークを構築するためホームページによる情報発信を行った。

ひきこもり相談 年間ホームページアクセス件数 (2019/4/1～2020/3/31)

年 度	件 数	備 考
平成 31 年度	23,001 件	
30 年度	20,320 件	
29 年度	19,876 件	
28 年度	17,297 件	
27 年度	7,665 件	(6 か月分)

○昨年度に比べ増加している。テレビ報道、各新聞報道の影響があると思われる。

○6月4日（火）に490回のアクセスがあり、川崎市・東京練馬の事件を受け、当時の厚生労働相から「安易にひきこもりなどと結びつけるのは慎むべきだ」と最初に述べたと報道がされた日であり、ひきこもり地域支援センターへの相談への促しもあり、関連があったと思われる。

○ひきこもり出張相談のページには2,353件のアクセス、メールフォーム(初回メール相談)には435件のアクセスがあり、それぞれ関心の高さがうかがえる。

(3) リーフレットについて

講演会や研修会などを活用し、ひきこもり本人および家族、関係者に向け配布した。

